

令和2年8月6日
101会議室

令和2年第15回
立川市教育委員会定例会

立川市教育委員会

令和2年第15回立川市教育委員会定例会

1 日 時 令和2年8月6日(木)

開会 午後 1時30分

閉会 午後 4時42分

休憩① 午後 4時23分～午後4時25分

2 場 所 101会議室

3 出席者

教育長 小町 邦彦

教育委員 田中 健一 伊藤 憲春

嶋田 敦子 小林 章子

署名委員 田中 健一

4 説明のため出席した者の職氏名

教育部長 大野 茂 教育総務課長 小林 直弘

学務課長 杉浦 丘美 指導課長 前田 元

統括指導主事 寺田 良太 統括指導主事 川崎 淳子

教育支援課長 秋武 典子 学校給食課長 南 彰彦

生涯学習推進センター長 岡部 浩昭 図書館長 池田 朋之

5 会議に出席した事務局の職員

教育総務課庶務係 笹原 康司 柏崎 彩花

案 件

1 議案

- (1) 議案第47号 懲戒等について
- (2) 議案第48号 懲戒等について
- (3) 議案第49号 教育委員会の点検・評価について
- (4) 議案第50号 立川市公の施設（立川市学習等供用施設）指定管理者候補者の選定について（諮問）

2 協議

- (1) 令和3年度使用立川市立中学校教科用図書の採択について
- (2) 立川市新学校給食共同調理場整備運営事業の特定事業選定について
- (3) 図書館の臨時休館について

3 報告

- (1) 新型コロナウイルス感染症の対応について

4 その他

令和2年第15回立川市教育委員会定例会議事日程

令和2年8月6日

101会議室

1 議案

- (1) 議案第47号 懲戒等について
- (2) 議案第48号 懲戒等について
- (3) 議案第49号 教育委員会の点検・評価について
- (4) 議案第50号 立川市公の施設（立川市学習等供用施設）指定管理者候補者の選定について（諮問）

2 協議

- (1) 令和3年度使用立川市立中学校教科用図書の採択について
- (2) 立川市新学校給食共同調理場整備運営事業の特定事業選定について
- (3) 図書館の臨時休館について

3 報告

- (1) 新型コロナウイルス感染症の対応について

4 その他

◎開会の辞

○小町教育長 ただいまから、令和 2 年第 15 回立川市教育委員会定例会を開催いたします。

署名委員に田中委員、お願いいたします。

○田中委員 はい。承知しました。

○小町教育長 次に、議事内容の確認を行います。本日は、議案 4 件、協議 3 件、報告 1 件でございます。その他は議事進行過程で確認をいたします。

次に議事進行についてお諮りいたします。1 議案(1)議案第 47 号、懲戒等について、1 議案(2)議案第 48 号、懲戒等について、は人事案件でございますので非公開として 4 その他のあとで審議を願います。並びに、2 協議(2)立川市新学校給食共同調理場整備運営事業の特定事業選定について、は公開前の事案でございますので、これも非公開として 4 その他のあとに審議することとさせていただきます。ご異議ございませんか。

〔「異議なし」との声あり〕

○小町教育長 異議なしと認めます。よって、1 議案(1)議案第 47 号、懲戒等について、1 議案(2)議案第 48 号、懲戒等について、2 協議(2)立川市新学校給食共同調理場整備運営事業の特定事業選定について、はその他のあとで審議していただくことといたします。

次に、出席者の確認を行います。大野教育部長、お願いいたします。

○大野教育部長 本日第 15 回立川市教育委員会定例会への出席管理職でございます。教育部長、教育総務課長、学務課長、指導課長、川崎統括指導主事、寺田統括指導主事、教育支援課長、学校給食課長、生涯学習推進センター長、図書館長でございます。

◎議 案

(3) 議案第 49 号 教育委員会の点検・評価について

○小町教育長 それでは、1 議案(3)議案第 49 号、教育委員会の点検・評価について、を議題といたします。

小林教育総務課長、説明をお願いいたします。

○小林教育総務課長 それでは、議案第 49 号、教育委員会の点検・評価について、ご説明をいたします。

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する報告書でございますが、こちらは地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条第 1 項の規定に基づき、教育委員会の権限に属する事務の管理運営及び執行の状況について点検・評価し、その内容をまとめたものでございます。

点検・評価の対象につきましては、平成 31 年度における教育委員会の 6 つの活動及び教育委員会所管の 4 つの分野別個別計画である第 2 次学校教育振興基本計画、第 5 次生涯学習推進計画、第 2 次図書館基本計画及び第 3 次子ども読書活動推進計画に掲げられている施策か

ら抽出した20の施策となります。

点検・評価につきましては、教育委員会が自ら点検を行うとともに、それぞれの専門分野の知見を有する学識経験者3名の方による外部評価も実施しております。

審議の経過でございますが、本年3月の第5回教育委員会定例会において、評価に関する基本方針を定めまして、以降5回にわたり教育委員会で協議等を行い、教育委員の皆様から頂戴したご意見を反映し本日議案として提出したものでございます。

なお、こちらの報告書につきましては9月の市議会文教委員会において報告するとともに、市ホームページにて公表いたします。よろしくご審議いただきますようお願いいたします。

以上でございます。

○小町教育長 説明ありがとうございました。

これより質疑に移ります。説明内容を踏まえ、ご質疑をお願いいたします。

はい、田中委員。

○田中委員 今、説明いただきました教育委員会活動の点検・評価6点、教育委員会施策の点検・評価、これは第2次学校教育振興基本計画含めて全部で4つあるわけですが、これらについてこれまで3回ほど時間をとって議論を重ねてきたわけですが、今、小林教育総務課長からご説明がありましたように、私どもの意見も反映しながら、なおかつ事務局の皆さん方は令和3年を目指して適切な取組はどうあるべきか、その辺りも丁寧に記載されてございます。

そういう私どもの意見、そしてまた事務局のこれからの具体的な取組について、それらを踏まえた上で外部評価委員の先生方が非常に貴重な提言をされ、またコメントを寄せられております。これを受けながら事務局としてなお一層の改善工夫をされることを是非お願い申し上げます。

○小町教育長 ほか、ございますか。よろしいですか。

〔「はい」との声あり〕

○小町教育長 これまで様々なご意見をいただきまして、内容の点検・評価、内容の充実に努めてまいりました。本日は議案ということですので、それではお諮りいたします。1議案(3)議案第49号、教育委員会の点検・評価について、は承認することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」との声あり〕

○小町教育長 異議なしと認めます。よって、議案第49号、教育委員会の点検・評価について、は承認されました。

◎議 案

(4) 議案第50号 立川市公の施設(立川市学習等供用施設) 指定管理者候補者の選定について(諮問)

○小町教育長 続きまして、1議案(4)議案第50号、立川市公の施設(立川市学習等供用施設) 指定管理者候補者の選定について(諮問)、を議題といたします。

岡部生涯学習推進センター長、説明をお願いいたします。

○岡部生涯学習推進センター長 議案第 50 号について、説明をいたします。

本件は、立川市公の施設指定管理者の指定手続等に関する条例第 7 条の規定に基づき、10 月に開催予定となっております立川市公の施設指定管理者候補者選定審査会に諮問するものであります。

学習等供用施設への指定管理につきましては、平成 18 年度から市内 11 館で一斉に導入し、今期は平成 30 年 4 月より第 5 期として 3 年間の指定管理を行っていただいたところです。

本件につきましては、指定管理導入当初から契約先は管理運営委員会に特命随意契約により契約を締結していた経緯があり、令和 3 年 4 月から始まる第 6 期におきましても、市の公の施設の名称、所在地等を一覧にお示しいたしました 11 館全館について、管理運営委員会と特命随意契約により契約を締結したいと考えております。

なお、今後の予定でございますが、公の施設指定管理者候補者選定審査会からの答申をいただきましたら、再度、教育委員会に議案を提出したいと考えております。

説明は以上になります。よろしくご審議をお願いいたします。

○小町教育長 説明ありがとうございました。

これより質疑に移ります。説明内容を踏まえ、ご質疑をお願いいたします。

はい、田中委員。

○田中委員 今説明をいただいた事案については、平成 17 年の条例第 24 号、第 7 条の規定によるものでありますので、ご説明の方向で是非お進めいただきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

○小町教育長 ほか、ございますか。

〔「ありません」との声あり〕

○小町教育長 ないようでございます。それではお諮りいたします。1 議案(4)議案第 50 号、立川市公の施設(立川市学習等供用施設)指定管理者候補者の選定について(諮問)、は提案のとおり承認することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」との声あり〕

○小町教育長 異議なしと認めます。よって、議案第 50 号、立川市公の施設(立川市学習等供用施設)指定管理者候補者の選定について(諮問)、は承認されました。

◎協 議

(1) 令和 3 年度使用立川市立中学校教科用図書の採択について

○小町教育長 続きまして、2 協議(1)令和 3 年度使用立川市立中学校教科用図書の採択について、を議題といたします。

前田指導課長、説明をお願いいたします。

○前田指導課長 それでは、ご説明いたします。

前回第 14 回教育委員会定例会において、選定検討委員会の報告をさせていただきました。

本日は先だってお配りいたしました選定検討委員会の報告書、またその後、各教育委員で調査いただいた内容、さらには本日お配りいたしました市民アンケート 58 件、教員アンケート 40 件などをもとに、各教科の教科用図書についてご協議いただければと存じます。

ご協議いただく順序については、まず国語科についてご意見をいただき、その後書写についてご意見をいただくというように、報告書等で示しました教科、種目の順番に従って種目ごとにご協議いただければと思います。

なお、本日ご協議いただいた内容を踏まえ、次回第 16 回教育委員会定例会において採択をお願いする予定でございます。どうぞ活発なご協議をよろしく願いいたします。

説明については以上です。

○小町教育長 説明ありがとうございました。

これより質疑に移ります。きょうは、教育委員の皆様方が参考にする資料をもとに検討された内容を、それぞれから発表していただければと思っています。一通り終わりましたら私から全体的なお話をさせていただいて、きょうの協議は終わりにさせていただきたいと思っています。

それでは早速でございますけれども、まず中学校教科用図書採択ということで国語でございます。どなたかご意見はございますか。

はい、田中委員。

○田中委員 国語に移る前に、発行名について東京都教育委員会の調査研究資料の中に発行者名が略されています。例えば東京書籍であれば東書、光村出版であれば光村、日本文教出版であれば日本文と、こういう略称で申し上げますのでお許しをいただきたいと思います。

今、小町教育長から、まず国語についてお話するよということでしたので、私から国語について申し上げます。

東書については、1 年生 P. 226、2 年生 P. 230、3 年生 P. 238 など、三省堂については 1 年が P. 28、同じく P. 74 など、また教出では 2 年が P. 211 など、光村は 3 年の P. 54、それぞれの中に比較や分類あるいは情報を整理しながら意見と根拠、具体と抽象などの情報との関連から捉えた教材であると思います。そういった点は特に本市の生徒にとっては大事なと思います。さらに、その中で立川の生徒にとって、立川の生徒のための生徒主体の教科書として分かりやすく楽しく学べる教科書、あるいは主体的・対話的で深い学びのある教科書であるといいなと思っています。

その上で、情報の取扱い方に関する事項、小中を見て、QRコードコンテンツ、さらには特別支援からユニバーサルデザイン、そしてまたコロナの関係もございますので、家庭教育への対応など、このような事項についてもさらに検討を加えていきたいなと思います。採択までに明日から 21 日間ございます。その中でしっかりと研究、検討を重ねてまいりたいと思います。

○小町教育長 ほか、ございますか。嶋田委員。

○嶋田委員 国語につきまして、私が中学生の頃には国語で一体何を勉強しているのか全く分

からなかったのですが、最近の教科書は、「あつなるほど、こういうことを勉強しているのか」というのが分かるようになっていて、どの教科書も大変よくできているなと思いました。

その中でも光村図書のものは、学習の「見通しをもつ」から「振り返る」までの流れが非常に分かりやすいですし、話す・聞く・書くといったところも具体的で、発問も具体的で大変分かりやすいなと思いました。

また、三省堂のものも詳しく分かりやすくまとめてあって、また、巻末などもよくできているなと思いました。

教育出版のものは、SDGsなど魅力的な題材もありますけれども、少し色合い的に薄くて見えにくいところがあったかなというふうに思いました。

○小町教育長 ほか、ございますか。伊藤委員。

○伊藤委員 各者よく研究されて、分かりやすくまとめていらっしゃるのではないかなという気がいたします。ただ、私自身は、小学校とかいろいろなところからのつながりを考えたときに、光村の場合に、小学校からの流れというのが比較的分かりやすいのではないかなという気がいたします。各者、本当によくまとめられているというのが現状で、例えば、こちらがいいのではないかなというふうな形で見えていったときにも、なかなか甲乙つけ難いというような印象を受けました。

○小町教育長 ほか、ございますか。小林委員。

○小林委員 皆さんおっしゃったようにどこの出版社も大変工夫されていて、いい題材を選んで載せているなという気がいたしました。

その中でも私は1者、ちょっと変わっているなというか今までの教科書らしくないなと思ったのが東京書籍ですけれども、「学びの扉」というコーナーがありまして、それが本当に普通の漫画で描いてありまして、例えば「ドラえもん」の漫画で、ドラえもんが主役なのか、のび太君が主役なのかと漫画の中で言い合ったりしていて、結局それは結論が出ないで、後ろのページにその解説があって、そこを開けばヒントがあるよというふうな流れになっているんですね。根拠を出さなければ議論は終わらないよという結論なのですけれども、そんなふうな、子どもが飛びつきそうな、ついつい読んでしまっ、何だろうと思いつつ結局最後には後ろを見れば自分が理解できるというような、ちょっと変わった工夫がされていて、すごくそれが印象に残りました。

あと、私は自分で考えて判断する上ではメディア・リテラシーがすごく大事だと思っています。どこもメディア・リテラシーを取り上げてはいますけれども、特に教育出版は「メディアと表現」という項目で1年から3年まで全部載せてあって、ほかのところもありますが、その載せ方が、池上さんの文章だとか、新聞を、同じテーマのものも新聞社によって違うんだというのを具体的に載せてみたり、そういう工夫もされています。ここでとてもいいなと思ったのは、シカの親子をライオンが後ろから狙っている絵があります。それはライオンから見たら、食べ物がなく困っているライオンがシカを見つけて、それはよかったという立場なんですけれども、シカから見たら、怖いライオンが近づいてきたということで、立場が違

えば見方も違うというようなすごく分かりやすい例として出ていましたので、それもとても印象に残っています。

ということで、それだけで決められませんけれども、いい教科書があったので迷っています。

○小町教育長 国語はよろしいですか。

〔「はい」との声あり〕

○小町教育長 続きまして書写、お願いいたします。

はい、田中委員。

○田中委員 書写について大事なことは、ただ文字を丁寧に書くだけではなくて、役に立つ力、それを意識して書写力をつけることではないかと思います。そのためには小学校で身に付けた「書写のかぎ」を中心として、書道の芸術につながる文字の表現、あるいは国語や他教科で扱われる言語活動や題材、そういうものを取り上げることが大事ではないかと思っております。

そこで東書の場合は、日常に生かす活用力を養う教科書として工夫されてきました。特にP. 14、20 などでは「書写のかぎ」をもとにねらいを焦点化し、必要な知識・技能を学びやすく工夫しておりました。また、「小学校の学習を振り返ろう」、「案内の手紙を書こう」、さらには「古典をもとに」などでは非常に丁寧に取扱いしておりました。

続いて三省堂ですけれども、学習したことを主体的に活用する力、この力をつけることができる教科書だなど思っております。非常によく工夫されておりました。特にP. 68 では、部分別行書で様々な漢字に応用できるように記載されてございました。また、姿勢、持ち方、用具の扱い、さらには「書の古典」についてもよく配慮されているなどと思います。

続いて教出については、日常生活に生きて働く「書写力」、これを養い活用できるような意欲を高める教科書としてとてもよく工夫されておりました。例えばP. 46 では文字の書き方が非常に丁寧に示されておりました。また、学習の進め方、生きて働く「書写力」を身に付ける、古典作品のなぞり書き、書写や言語活動などにも配慮されておりました。

最後に光村ですけれども、書写の基礎・基本が無理なく身に付くような教科書として工夫されておりました。特にP. 84 ではデザイナーの文字の作り方が掲載されておりましたし、かつ書写ブックは取り外しができるために、教科書の該当ページと対応させることができるように工夫されておりました。その上で、「学習の窓」あるいは「全国文字マップ」、「書写ブック」など、これについてもよく工夫されております。

本市の生徒にどのような教育効果があるのか、そのことも踏まえながら、さらに検討を重ねてまいりたいと思います。

○小町教育長 ほか、ございますか。嶋田委員。

○嶋田委員 どの書写の教科書も本当に今の教科書は実生活で使うことを意識してあって、私もほしいなと思うぐらいよくできているなど思いました。

教育出版のものがお手本も分かりやすくて実例とかも多くなっているかなというふうに、

いいなと思いました。東京書籍のものもお手本が分かりやすかったです。

ただ、国語の教科書と同じほうがいいという先生方のご意見もありますので、同じにするということであれば、どの教科書でも差支えないかなと思います。

○小町教育長 ほか、ございますか。伊藤委員。

○伊藤委員 田中委員や嶋田委員のお話どおり、どの会社もきれいに分かりやすく書いています。書写の場合、実際に使われる先生のご意見もまた参考にしながら、選ぶのがいいのではないかなという気がいたします。

○小町教育長 小林委員。

○小林委員 私も同じです。どれも本当に分かりやすくできてきれいで、書いてみたくなるような教科書になっていると思います。

教育出版は年賀状の例が結構多く出ていまして、参考にはなりますが、手書きの年賀状も少なくなってきていますので、かえってどうなのかなという気もいたしました。

本当にどれもいいかなと思います。国語との関連も考えたいと思います。

○小町教育長 ほか、ございますか。書写はよろしいですか。

〔「はい」との声あり〕

○小町教育長 続きまして、社会(地理的分野)、お願いいたします。

はい、田中委員。

○田中委員 社会科の地理的分野でございますけれども、東書については、公共の精神に基づき、主体的に参画する態度を養う教科書としてとてもよく工夫されておりました。特に「見方・考え方」、同じく「探究課題」、環境、エネルギーなどが非常に丁寧に記載されておりました。あわせて、情報を取り出して推論できるように工夫してあります。こういう観点は非常に大事ななと思っております。

続いて教出ですけれども、教出については、自分なりの枠組みで社会や世界を捉え直し、自己との関わりを考えて、今日的な課題の所在やその解決について探究できる教科書としてとてもよく工夫されておりました。例えば、地理にアプローチ、同じく領土について探求できる教科書、そしてこの領土もあわせて、この後に震災、防災などをもとに3つの技能、これが着実に身に付くように工夫されてございました。

次に帝国ですけれども、帝国については地域に見られる課題の解決に向けて構想させる活動、これが豊富に設けられておりますし、社会の形成に参画する態度を涵養する教科書としてよく工夫されておりました。例えば環境・防災・共生のテーマにあわせて、人権、平和、環境、エネルギー、防災、安全を取り扱いながら地域のよりよい発展を目指しております。地域のよりよい発展を目指してではSDGsを取り上げて、知識のみならず技能もしっかり身に付けるように重視しておりました。

最後に日文でございます。日文については、見方・考え方を働かせながら学習を進め、単元を通して主体的・対話的で深い学び、これがまさに実現できるような教科書としてよく工夫されておりました。特に見方・考え方を働かせる問い、ここでは深めようコーナーが設け

てございました。さらに思考ルートではウェビングマップ、ダイヤモンドランキング、このようなものも取り上げながら震災あるいは防災について具体的に示してございます。ここではとりわけ防災あるいは震災については6ページにわたって丁寧に記載しております。

したがって、それぞれ4者ともとてもよく工夫された教科書であるなと思っております。今後ともしっかりと研究を深めながら検討を加えてまいりたいと思います。

○小町教育長 ほか、ございますか。嶋田委員。

○嶋田委員 地理の教科書もとてもよくできていると思います。

特に帝国書院のものは地図や写真がきれいで、またページごとのメリハリもあって、「振り返り」とか「技能をみがく」といったページもよくできているなと思いました。

それから教育出版のものも単元ごとの学習のまとめなどもよくできているなと思いました。

○小町教育長 ほか、ございますか。伊藤委員。

○伊藤委員 地理的分野につきましては、それぞれに特徴が、写真が豊富であったり、新しい視点があったりありますけれど、今こういうご時世ですので、私どうしてもハザードマップのほうに目が行ってしまって、全体的にそれぞれの会社がそれについても書いていますけれども、私としては、量は少ないですけれども帝国書院のハザードマップの記載がとても分かりやすく感じられましたので、私はこちらを推したいと思っております。

○小町教育長 ほか、ございますか。小林委員。

○小林委員 地理の教科書も本当にいろいろな情報が盛り込まれていて、ついつい引き込まれて読んでしまいました。

東京書籍ですが、すごく読みやすく、多分文字が違うのでしょうか読みやすく、ルビがついて、写真もきれいだし、右下のほうに「チェック&トライ」というのがありまして、そこもよかったです。あと、「基礎・基本のまとめ」というところで、その単元の復習ということになるのだと思いますけれど、そこがおもしろい提案の仕方をしていまして、ディレクターになってテレビで発信するにはというのとか、北海道へ行く旅行のプランを立ててみようとか、ポスターをつくってみよう、参加してみようみたいな、そのまとめの仕方がちょっと変わっているなと思って気に入りました。それからQRコードですが、東京書籍はQRコードは復習に使っている部分が多くて、それを見ると小学校の教科書のどことか、歴史の教科書のどことか、それが出てくるのですごく便利だなと思いました。

あと、日本文教出版は災害の部分、震災とか火山の噴火とか豪雨とか、ハザードマップ、釜石の奇跡、災害のそなえ、そのような内容で8ページにわたって取り上げられているので、ここは本当に今必要なことなのかなと思います。

教育出版は右下のほうに、関連した話題が分かるようなことが書いてありまして、写真が見開きというか開くようになるページがあって、そこは宇宙から見た日本とか世界で、すごくきれいなページでした。

帝国書院はコラムがすごく多いなと感じました。「技能をみがく」とか、「地理プラス」で情報を提示したり、「未来に向けて」とか、いろいろなタイトルでコラムが多いなと思いま

た。文章は文字が見にくいというか行間が狭いような気がしました。

○小町教育長 ほか、ございますか。よろしいですか。

〔「はい」との声あり〕

○小町教育長 続きまして、社会(歴史的分野)に移ります。

はい、田中委員。

○田中委員 社会科の歴史的分野でございます。これについては7者ほどございます。順を追って申し上げます。

東書については、歴史的分野の基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着できる教科書。そしてとても工夫されております。例えば、単元の導入、まとめの活動や共同学習のコーナーなどが設けられております。また、見方・考え方を効果的に働かせる場面では、見方・考え方マーク、これが示してございました。小学校で学習した文化財あるいは出来事を振り返る活動を設けたり、伝統文化ではアイヌ民族や琉球王朝の歴史を示す部分だけでなく多文化共生の視点をもたせるよう工夫されておりました。さらに分野関連マーク、他教科関連マークなどもよく工夫されております。

続いて教出ですが、教出についても、社会や世界を捉え直し、自己との関わりを考えて、今日的な課題の所在やその解決について探求できる教科書として工夫されておりました。特に「歴史の技」では絵や資料、新聞の読み取りや表など、こういうものを取り上げながら、小学校で学習した人物や文化財を振り返る「歴史すごろく」、さらには小学校で登場したキャラクターが成長して登場するなど、非常によく工夫されております。

続いて帝国書院は、文化史・地域史・社会史の充実により、日本の伝統と文化への深い理解を促進する教科書としてよく工夫されておりました。特に知識・技能を確実に習得する工夫として用語マーク、「技能をみがく」では見方・考え方を働かせるために必要な技能を身に付けさせるなどの工夫が見られました。さらに、時代や年代、あるいは推移、相互の観念、比較なども紹介されておりました。よくここまで一つ一つ丁寧に取扱っておられるなど感心しております。

続いて山川でございます。山川については、深く、かつ分かりやすく歴史の知識を身に付けることができる教科書として工夫されておりました。例えば「歴史を考える」では、調査、まとめ、発表のスキルの習得、問いかけを考える、時代全体の振り返りの工夫、そういうものが見られました。また、詳説日本史あるいは世界史を発行していることから高校での接続、これを意識して工夫されたのかなと思っています。

日文ですが、日文については学習内容の構造化と焦点化を図り、生徒が「主体的・対話的で深い学び」を通して、「時代の特色」を捉えることができる教科書としてよく工夫されております。例えば「学びを日々の生活や社会に活かす」を用意してありました。また、ねらいを構想するにあたって、コラム「先人に学ぶ」、「地域に学ぶ」、スキルアップなどについて一つ一つ丁寧に取扱っております。その上で政治経済、社会文化、介護に分けてテーマ別索引が現代的な諸課題を振り返る際の参考として設けられておりました。

続いて育鵬社でございます。育鵬社は我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとともに、様々な資料から歴史に関する情報を効果的に調べ身に付ける教科書としてとても工夫されておりました。そのために基礎・基本的な技術をしっかり身に付ける、このことから世界の歴史を背景に日本の歴史を理解し、政治、産業などに着目して時代の特色を明らかにしておりました。また、つかむ、調べる、まとめる、この資料を適切に配慮されながら学習を確実に定着できる工夫をしておりました。さらに歴史ズームインあるいは人間クローズアップなどのページやコラム、こういうものを設けながら非常によく工夫されておりました。

最後でございます。学び舎は地域の文化財や諸資料を活用して、身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し、表現できる教科書としてよく工夫されておりました。例えば羽村や小平等の地域の資料を丁寧に取り扱っております。また、多面的・多角的に考察し表現するとともに、日本と世界の歴史や文化が相互に深く関わっていることを考察し、多様性に気づかせるよう工夫されておりました。その上で各章の扉のページには世界地図を用いて日本以外の国の様子にも触れるようにしておりました。

これら7者の特色と違いをもう一度検討しながら、本市の生徒の基礎的・基本的な学びの定着を図るためにどの教科書が望ましいのか、さらに検討を重ねてまいりたいと思います。

○小町教育長 ほか、ございますか。嶋田委員。

○嶋田委員 歴史の教科書につきまして、まず東京書籍のものは、まとめのページで探究活動ができるようになっていて、そこがとてもいいなと思いました。

教育出版のものも、学習を始めようからまとめまでの流れがあって、また各章の①②のところにも年表が見やすい形についていまして、これがいいと思いました。

帝国書院のものも地理と同じくいいと思ったのですが、逆に写真がきれい過ぎて、鮮やか過ぎて、きついなと思うページもありました。

それから学び舎の教科書は、写真や資料が興味を引くもの多くて、読書の好きな子などが読みやすくできているかなと思いましたけれども、受験にも使う教科書だと考えると、重要語句、まとめが分かりやすくなっているもののほうが立川の子どもたちには合っているのかなと思いました。

○小町教育長 ほか、ございますか。伊藤委員。

○伊藤委員 歴史の教科書につきましては、かなり情報量がいっぱいあるというのが実感でございます。例えば一ページに、いろいろ参考になるようなところの図であるとか、項目であるとか、写真であるとかが大変多く入っているのですね。それ自体はもちろん必要なことではあるのですが、どれくらい分かりやすく、あちらこちらに気持ちが飛んでしまわなくて、本来覚えておくのがいいというような形のところがどれだけ入るかというのが、なかなか難しいのではないのかなという気がいたしました。ですから先生方が子どもたちをうまくリードしていただくということがとても必要なのではないかと。

その中で、量的には少ないのかもしれませんが、私としては教育出版が比較的バラ

ンスがとれて見やすいのではないのかなという気がいたしました。

○小町教育長 ほか、ございますか。小林委員。

○小林委員 本当に歴史の内容はどんどん、どんどん増えていきますので教えるのが大変なんだとは思いますが、大体の教科書が歴史を学ぶ意義から入って、小学校の復習、時代の流れの復習、それから本文があって、その本文にいろいろ注釈みたいなものがたくさんついていて、本文の周りにある写真だの文章のほうが多くなるぐらいになっていまして、深めたり掘り下げたりという感じに、大体の教科書がそういうパターンになっています。私も歴史はいろいろな見方があるので、本文は淡々と書いてあったほうがいいかなと思っています。

各出版社ですけれども、東京書籍は歴史の扉がイラストで流れていて分かりやすくなって、小学校の復習が分かりやすくてできそうな気がします。使い方・学び方はすごく意図があって書かれていると思いますけれど、細かすぎて読んだときによく分かりませんでした。復習問題もあって振り返りができて、自分で記入するようになっていましてので自宅学習でもできるかなという感じです。

八田興一って皆さんご存知ですか。私、何年か前に台湾旅行に行ったんですけれども、そこで現地の日本語を話せるガイドさんが、台湾の教科書には日本人の名前が3人載っているということを教えてくれて、その中の1人が八田興一。何者かの教科書には載っていますが、日本人が知らないのはおかしいなとその時すごく思ったのですね。同行した人たちもあまり知らなかったのですけれども、最近の教科書はそれが載っているということで、例えば同じように、命のビザを発行した杉原千畝とか、エルトゥール号の人たちを助けてトルコとの交流が未だに続いているとか、そういう今につながる歴史というのも必要なのではないかなと思って、東京書籍はそれが全部載っていました。

教育出版ですけれども、ここも「私たちにつながる歴史」という欄があって、人々の政治参加のあり方とかメディアの多様化だとか科学技術の発展とか、本当に今につながっているような題材を歴史の中にはめ込んでいるのがいいかなと思いました。

帝国書院ですけれども、これはタイムトラベルという形で子どもたちがタイムマシーンに乗って時代を旅するという形になっていて、すごく印象に残りました。ただ年代を暗記してというのではなく、タイムマシーンに乗って行って、今の時代から見たらどうなんだろうとか、今だったらどうするんだろうとか、そういう感覚で歴史を学べるといいなというふうに思いました。多分そういう工夫なのではないかと思いますが、そこはよかったと思います。あと、いろいろなコラムが、「技能をみがく」とか「未来に向けて」とか「歴史プラス」とかいろいろ材料がたくさん入っていて、全部学ぶというのはとても大変かと思いますが、興味があるものは印象に残るのではないかなと思って、あればあったでいいかなというふうに思いました。

それから山川出版は、歴史へのアプローチという題材があってそこも興味がありましたけれども、今、確認したのですけれども、アンネフランクとか出てこないですね。杉原千畝も八

田與一もありませんでした。

日本文教出版は女性史のコラムがあったのが、これが良かったです。あと、エルトゥール号で未だに日本とトルコが続いているということも詳しく載っていました。

学び舎は、縦長で少し大きい感じになっているので、これ、何か意図があるのか、たくさん中身を載せたいからこういうふうになっているのか、意図が分かりませんが、かさばって重くなってしまわないかなという気がします。でも、コラムとしていろいろなものがあって、寺子屋の子どもたちとかいろいろあって、それはすごくたくさんあって読んでいておもしろかったです。

それから育鵬社ですけれども、すごく紙が白くて発色がきれいで、見やすいです。大人が、いろいろ知識があって経験を積んで情報も持っていて、その上で読むと読み物としてとてもおもしろいと感じるかと思います。ただ、中学生で、真っ白な子どもたちが読むのは、先生の誘導もあるかもしれませんがちょっと難しいかなという気がしております。

○小町教育長 では、歴史はよろしいですか。

〔「はい」との声あり〕

○小町教育長 続きまして、社会(公民的分野)です。

はい、田中委員。

○田中委員 社会の公民的分野について申し上げます。教科書としては6者ございます。順を追って申し上げます。

東書については、資料収集あるいは読み取りなど、公民学習に必要な技能を確実に身に付けるような教科書としてとても工夫されておりました。特に持続可能な開発目標、SDGsや環境、エネルギー、情動的な諸課題を理解し、その上でこれらについて新聞の記事なども取り入れながら記載してございました。さらに、主権者の選挙権あるいは国民投票権の満18歳以上の引き下げ等を通して、現代的な諸課題を理解し、情報を取り出して比較を図り、具体的に取り組む工夫などが見られました。さらに写真や図等の資料にタイトルがついております。個々にこれを通して必要に応じて補足説明がされており、生徒の理解の一助になるのではないかと考えております。

続いて教出ですが、教出については、今日的な課題の所在やその解決について探求する教科書として工夫されておりました。特に、「読んで深く考えよう」や「公民の窓」では、人権、平和の問題、環境問題、伝統文化、情報などを取り扱いながら課題解決を図るように工夫してございました。さらに、キャラクターの吹き出しによる問いかけなどがありました。こういうことが非常に生徒の興味・関心をよぶのではないかと考えております。

次に帝国ですが、帝国は、社会に見られる課題の選択・判断に取り組む活動に充実した教科書として工夫されておりました。例えば特設ページの中で、「よりよい社会を目指して」、あるいはコラムの中では「未来に向けて」、人権問題、環境、エネルギー問題、防災・減災などの取組を扱いながら、なおかつグローバル化、少子高齢化、人権、情報、この4つのテーマに分かれてアイコンがついていて生徒の課題に資する工夫がされておりました。このよう

な工夫がとても大きかと思えます。

続いて日文ですが、日文は、公民的分野での学習を通して資質・能力を育み、自らの成長を実感できる教科書として工夫されておりました。特に見方・考え方を働かせるコーナーが見開きページになっています。それによって課題解決の手掛かりになっているのではないかと思います。また、シンキングツールマークがございました。これを通しながら単元のまとめなどの課題解決の思考ツールを紹介するコーナーになっております。このような工夫はとても大きかと思えます。

続いて自由社でございます。自由社については、主体的に思考し、判断し、表現することで公民として必要な主体的、実践的な能力を伸ばす教科書として工夫されておりました。特に、重要な語句についてはミニ知識欄を設けて解説を加えております。また、資料や写真あるいは図を多く活用し生徒の興味・関心を引き出すような工夫もされております。その上で、章のまとめの課題も工夫され学習の振り返りが設けられております。このようなことは極めて効果的であると思えます。

最後でございます。育鵬社については、現代社会についての基礎的・基本的な知識と、見方や考え方の基礎を確実に定着させ、公民として必要な資質を育む教科書として工夫されておりました。特に「学習を深めよう」では、人権問題、防災・減災の取組、伝統文化、情報化などを扱い、全体として見方・考え方を捉える工夫がされておりました。また、SDGsでは巻頭ページと国際単元にまとめて取り扱っており、拉致問題では本文に具体的な記述がありました。さらに、新聞社説を比べてディベートする活動を通して生徒に考えさせる、そのような工夫もしておりました。

以上のことを通して、どこの教科書が本市の生徒の実態を踏まえて課題解決力に資するのかを検討してまいりたいと思えます。

○小町教育長 ほか、ございますか。嶋田委員。

○嶋田委員 公民的分野ですけれども、東京書籍のものが「みんなでチャレンジ」といったページで考えを深めたり課題を解決しようといったところで話し合い活動もできるかなと思えました。

教育出版のものも、分かりやすくまとめてあって、写真や資料も見やすいですし、話し合い活動もできるような題材を扱っていると思えました。

帝国書院は、まとめ、振り返りのページがよくできていて、「アクティブ公民」といったページも使いやすくできていたと思えました。ただ少し漫画に頼り過ぎかなと思えました。調べ学習はできるけれども、話し合い活動は少ししにくいかなと思えました。

自由社のものは、ちょっと色合いがきついかないというふうに感じました。

育鵬社は、ディベートなどできるのは良いと思いましたがけれども、子どもたちが身近に感じられるような題材が少し少ないかなというふうに感じました。

○小町教育長 ほか、ございますか。伊藤委員。

○伊藤委員 公民についても各社、載せなければいけないという項目がとても多いために、あ

る意味では、とてもいっぱい情報が入っているというような形で、その中でできるだけシンプルに、これから大人になっていく中学生に、それぞれのこれからの考え方をうまく教えることができるかなというところで考えてみました。

それぞれ特徴がありますけれども、選挙権であるとか、子ども食堂であるとか、今実際に子どもたちが悩んでいるようなところをうまく取り上げているというところから考えると、私は、東京書籍また教育出版の教科書が比較的分かりやすいのではないかなという気がいたします。

○小町教育長 ほか、ございますか。小林委員。

○小林委員 公民は今社会に生きていくうえで必要なことが全て盛り込まれていて、これを意識すれば、公民によって社会に目を向けて関心をもってくれる子どもたちが増えればいいなと思いました。

それで教育出版ですけれども、目に付いたのは、ニュージーランドのアーダーン首相の写真が出ていまして、今、新型コロナ対策でうまくいって評価の高い首相ですけれども、そういうそんなにタイムリーな内容ではなく、子どもを連れて国連の会議に出席したという、そういう世界で何番目かに若い首相ですけれども、そういうことから、世の中、世界に関心を持ってもらえればいいかなと思いました。教育出版は内容的にもコラムもすごく多いですし、男女共生、LGBT、ヘイトスピーチ、子ども食堂、裁判員制度など、そういう必要な内容が、大事なことが盛り込まれているような気がいたします。

あと、東京書籍も本当に内容が豊富ですね。

どれを読んでも勉強になることばかりなので、本当に甲乙つけ難いですが、ここに項目を全部書き出しているのですが、これを読んでいる時間ありませんので、子どもたちが本当に勉強になる内容になっているかと思います。もう少し私、公民は勉強させてもらいます。

○小町教育長 よろしいですか。

〔「はい」との声あり〕

○小町教育長 続きまして、地図に移ります。

はい、田中委員。

○田中委員 地図については東書と帝国がございまして、順を追って申し上げます。

東書については、社会科3分野の連携をサポートして、基礎的・基本的な知識や概念あるいは技能の定着を図る地図帳として工夫されておりました。その特徴については、7、8ページにSDGsを中心に諸課題を捉える特集ページを設けておりました。また、縦向きの地図帳、これを効果的に取り入れて地球儀の代わりに使えるような工夫をされております。生徒の興味・関心を高めるのではないかと、そのように思っております。さらに、東書の歴史的分野や公民的分野の教科書と連携しているページを新しく設けております。全体にユニバーサルデザインを取り入れているために、生徒が見やすいのではないかと考えております。

一方帝国は、誰でも見やすく使用しやすく、主体的に学べる地図帳として工夫されてお

ました。例えば、これまでの AB 判を A 判に大判化してあります。これによって見やすくなっております。特に鳥瞰図の充実、日本の各地の主題図では、自然、人口分布、農業、工業と基本的資料としているために、例えば修学旅行の事前あるいは事後学習に活用しやすいのではないかと。また、この問いの設定により生徒が主体的に学びやすいように工夫されております。さらに、この二次元コードにより広い資料活用が可能であると、そのように思っております。

今後さらに生徒の活用等も含めて検討を加えていきたいと思っております。

○小町教育長 ほか、ございますか。嶋田委員。

○嶋田委員 やはり地図は帝国書院のものがきれいで、また、いろいろな地図があつて、いろいろな視点で興味をもつ子どもたちがいるかなというところで、いいかなと思っております。

○小町教育長 ほか、ございますか。伊藤委員。

○伊藤委員 私も何しろ見慣れているというのが第一印象でございますので、どうしても帝国書院のものが見ていて安心できるかなという気はいたします。ただ、今の子どもたち、地図とかそういうような形を見るというのがとても下手になっているので、そういうところから考え方を少し入れたほうがいいのかなというような気もいたしました。

○小町教育長 ほか、ございますか。小林委員。

○小林委員 帝国書院は判が大きいだけあつてとても見やすく、最初の凡例などを両方見比べてしまいますと、やはり大きさのせいで、東京書籍はごちゃごちゃになって見にくいですが、帝国書院のほうはすっきりして、一番最初の主要なところですので、見やすいのいいかと思っております。

あと、東京書籍のほうで、関東地方を見ていましたら東京オリンピックの会場とか出てきていました。来年やることを期待して、そうすると、これがあるととてもいいなというふうに思います。

○小町教育長 続きまして、数学でございます。

はい、田中委員。

○田中委員 数学については7者ございます。順を追って申し上げます。

東書については、教科書の最初に数学的な学びを説明し、具体的な事例がございます。最後に計算の定着問題や応用問題、そして課題解決問題があります。しかも動画でも確認ができるように工夫されておりました。また、挿絵や色づかい、あるいは図形のバランスがとてもよくできております。見ても見やすいという感じを受けました。また、かけ算の九九表、これについては導入に最適であると思っております。さらに、時代に合ったインターネットが随所にあり、家庭で学習できるように工夫されておりました。

次に大日本では、他教科で学ぶ題材を数学的に解決しようとする題材が適度に挿入され、生徒の興味・関心を高める体験ができる、そんな教科書として非常に工夫されておりました。その中で「思い出そう」の枠が設けられておまして、既習事項を的確にまとめ、連続性が示されたために意欲や関心、そういうものを引き出す配慮がしてありました。さらに「社会

にリンク」などキャリア教育の視点も充実しておりました。

次に学図でございます。学図については、章のはじめに振り返りや導入の問いがあり分かりやすくなっております。また各単元の最後に「どんなことがわかったかな」があり、できるようになったことのチェック欄があります。これも非常に大事なことだと思えます。あわせて日常生活での活用例もあり、課題発見にも効果的に工夫されておりました。さらに章末問題、それぞれ章がありますがこの章の終わりには問題の基本、応用での活用例もあります。特に課題発見についても効果的に工夫されておりました。特に章末の問題の中で「基本」「応用」「活用」、この3部門の構成が非常に分かりやすくなっております。なおかつQRコードも明示されておりますし、家庭でも活用できるように工夫されておりました。

次に教出でございます。教出は、「数学の広場」が設けられております。学習内容を深めたり広げたりするページもあります。日常生活に活用できる工夫が見て取れました。また、各単元の導入と終わりに課題解決の問題が設けられております。これによって応用力がさらに身に付くように工夫されておりました。さらに二次方程式では因数分解による解き方が先に出てきており、生徒が理解しやすいように思われました。

次に啓林館でございます。啓林館は、「ふりかえり」では小学校の復習を学び生かそうということで、これを通してながら高校数学につながるような発展的な内容となっております。特に生徒が系統的に学習できるように工夫されておりました。また、「数学ライブラリー」では数学を学ぶ意義や有用性を実感できる内容として工夫されております。さらにQRコードが多数用意されており、教科書に関するコンテンツを見ることができるよう工夫されております。そこには解決や家庭学習で活用できるよう工夫がされておりました。

次に数研でございます。数研は、単元の始まりに必要な「ふりかえり」のページにあります。新たに学習するには非常に学びやすい工夫がされております。また、問題解決的学習をねらいとする別冊、これについては内容、分量ともに生徒にとっても十分なものであらうと思われます。さらに、日常生活に即した内容を多く取り入れ、補充問題も適切に設けられておりました。

最後でございます。日文は、各章に入る前の「次の章を学ぶ前に」では、関連した既習内容を取り入れていて、学習に系統性をもたせるよう工夫されておりました。また、ページの下の部分には次の課題が設定されており、生徒が興味をもって取り組みやすいような、そのきっかけづくりになるのではないかと思います。さらに巻末のマイトライ、ここでは日常生活における問題を多く取り入れておりました。生徒に数学を学ぶ意義など分かりやすく示しておりました。いろいろ工夫された教科書であると思えます。

○小町教育長 ほか、ございますか。嶋田委員。

○嶋田委員 数学の教科書は本当に様々で、会社によって差があるなというふうに思いました。

東京書籍のものはシンプルで必要な情報が多くて大変見やすい教科書だと思いました。写真やイラストは多くはないのですけれども、効果的に使ってあるなと思いました。

大日本図書のもは、身近な写真などを用いて子どもたちの興味・関心を引き出すことが

できそうにみえました。「活用・探究」や「社会にリンク」といったページも悪くないな思いました。

あと一言ずついきますと、学校図書の巻末の「さらなる数学へ」というところがおもしろくできているなと思いました。ちょっとポイントが多過ぎて先生によっては使いにくいのかなというふうに感じました。

教育出版のもの、ここは「数学の広場」などがおもしろいなと思いましたが、少しごちゃごちゃして見にくいところもあったかなと思います。

啓林館のものは、イラストが可愛らしいですし、子どもたちがイメージしやすい題材を各章ごとに扱っているなと思いました。それから巻末から「自分から学ぼう編」で始まっているのがとてもいいなと思いました。

数研出版、こちらシンプルですが、写真やイラストが効果的に使われていないかなと感じてしまいました。巻末の数学旅行はおもしろいけれども唐突に出てきたなという感じがしました。

日文も、これも巻末がおもしろいですが、導入が子どもの興味を引くものが少ないかなと思いました。

○小町教育長 ほか、ございますか。伊藤委員。

○伊藤委員 私も、各者それぞれ特徴があり、とてもある意味難しい選定だなというような気がいたしながら読ませていただきました。ある程度会社の名前を書きながら順番にこういうところが良いところ、ちょっとここが分かりづらいところというような形で印をつけながら最後まできたときに、もう一回最初から全部考えなければいけないというのが素直な感想でした。

ですからこの中で一番シンプルに頭に入りそうであるという感じがする、それからまた小学校算数から数学に入るときに、すごく入りやすいのではないかなというのは東京書籍というような気がいたしました。

○小町教育長 ほか、ございますか。小林委員。

○小林委員 私も見ているうちに、どれがどれだか分からなくなるぐらいにバラエティーに富んでいて、決め難いです。それぞれに工夫されていて、巻末のいろいろな特徴がありまして、自分で復習できるという部分がついているところもありましたし、もっと数学の世界へというふうに興味を引くようなトピックスがついているのもありました。というふういろいろな工夫がされていて、まだちょっと決めかねていますけれども、例題がいかにも数学という感じではなく、身近で楽しめる、「わかる、わかる」というような例題であれば、数学が苦手な子でも、良いのかなという気がしまして、東京書籍は、ちょっと記憶が薄いんですけども水の量を量るときに、自分たちが学校で入るプールを例に出したりとか、野球のドラフトのくじであったりとか、サッカーコート線の引きについてであったりとか、買物で売店に並ぶときに、レジでどっちに並んだら早いかなというようなこととか、大縄の並び方とか、そういう分かりやすい例題が多くて、それはいいかなというふうに思いました。

もっと検討させていただきます。

○小町教育長 では、数学はよろしいですか。

〔「はい」との声あり〕

○小町教育長 続きまして理科、お願いいたします。

はい、田中委員。

○田中委員 理科については5者ございます。順を追って申し上げます。

まず東書についてですが、生徒も教師も資質・能力を意識した活動を進めることができるような教科書として非常によく工夫されておりました。特にP.16では学習のポイントを押さえ、問題解決までのプロセスが分かりやすく構成されておりました。また、問題が例題276、問題が3,883もあり、電卓やコンピュータあるいは情報通信ネットワークが36か所ございました。これらを通して発展的な内容として非常に工夫されているなと思いました。さらに縦長の教科書のために、実験中のスペースがある程度確保されるのではないかと思います。このような縦長の教科書というのは割合少ないですけれども、これについては今申し上げたような実験中のスペースがある程度確保されるように工夫されているのだなと思います。

続いて大日本でございます。大日本については、学習内容とつながりのある内容で、学びを広げられるように工夫されておりました。特に、単元末のまとめに、語句、図、イラストがあります。それをもとにして振り返りしやすいように工夫されておりました。さらに、「発展」のアイコンを記している部分には興味・関心の高い生徒の学びを深める手掛かりとなっております。

続いて学図でございます。学図は、生徒が見通しをもって、主体的、論理的に深められる教科書として工夫されております。特に、必要な情報量をもとに教科書だけで完結するようになっております。さらに裏の見返しには、ホワイトボードマーカーで書いたり消したりできるページが設定されております。個人で考察したり、あるいはグループで考えたりする際に大いに役立つのではないかと考えております。

次に教出でございます。教出については、生徒は理科の面白さあるいは有用性、これが実感できるように、学びを新たにできるのではないかと思います。さらにハローサイエンスや発展のコラムがありました。これを通して理科の学びと日常生活の関連、これが図れるように工夫されておりました。

最後に啓林館でございます。啓林館は、探究的な学習によって、科学的な思考力が身に付くような教科書として工夫されております。特にP.120では、小学校と中学校の学びの接続を意識した教科書として工夫されております。さらに「学ぶ前にトライ!」と「学んだ後にリトライ!」、これによって生徒自身が知識や考えの変化、それに気づかせるような工夫がされております。このような工夫が生徒にとっては大事なのではないかと、そのように思っております。

○小町教育長 ほか、ございますか。嶋田委員。

○嶋田委員 理科につきまして、東京書籍のものが問題発見から活用に至るまでの流れが分か

りやすく、章末でのまとめもよくできていると思いました。写真やイラストもきれいでいいなと思いましたけれども、ちょっと大きいのがどうなのかなとは思いますが。

大日本図書のは、「やってみよう」とか「くらしの中の理科」などが子どもたちの興味・関心を引き出せる内容になっているかなと思いましたけれども、この調査結果の資料を見させていただくと、いろいろと、「鳥類はハチュウ類から進化」とか、電池の話とか電流の話とか、どうなのかなと思って、分からないですけれどもちょっと気になります。

啓林館のもの、写真が多くてメリハリはあるけれども、本文が読みづらい何を検討しているのか分かりにくいと思う部分がちょっとあったように感じました。

○小町教育長 ほか、ございますか。伊藤委員。

○伊藤委員 各者、本当にきれいに興味を引くような形になっていると思います。

私としては、小学校の教科書を選んだときに、実験に対して安全性、こういうところは気を付けたほうがいいというようなところがイラストでとても分かりやすく書いてあったので選んだという記憶がある教育出版です。実験についても例えばゴーグルであるとか、とても分かりやすい絵になっているので、実験をするときに子どもたちがそういうのを見ながらということになると、いいかなという気がいたします。

○小町教育長 ほか、ございますか。小林委員。

○小林委員 まず東京書籍は、先ほどどなたかもおっしゃっていましたが、課題があって、話し合っ、観察して、結果があって、活用があってというふうに、その流れが教科書にちゃんと分かりやすく書いてあるというのがいいかなと思います。あと、縦長ですよ。縦長は実験のときに机が広く使えるということで良いというふうに聞いていますが、これが東京書籍だけというのはどういうことでしょうか。

今、伊藤委員がおっしゃった実験のときの注意事項みたいなことが「理科室のきまり」というふうに書かれていて、1年は巻頭で、2年・3年は巻末に入っていますけれども、どこの教科書会社もそうになっていますが、大丈夫なのかなというふうに、毎学年ちゃんと確認するために最初にあったほうがいいのかなという気がしたのですけれども、教科書、どこもそうになっているということは大丈夫ということなんでしょうかね。大日本図書も「理科室のきまり」、1年は巻頭で2年・3年は巻末です。

大日本図書ですが、職業紹介というところがあって、これは理科が好きの子は将来こういうふうになりたいなというような目標ができるという意味で、こういう欄というか、あってもいいのではないかなと思いました。あと、「やってみよう」、「思い出そう」、というふうに既に学んだことも思い出せるというところがありました。

次に学校図書ですが、最初の章に入るまでにとても長くて、まず理科のトリセツというふうな、とても現代的な表現ですけれども、なぜ理科を学ぶのか、どうやって学ぶのかというようなことでずうっと書いてあります。趣旨はとてもよく分かりますが、始まるまでに目次も入れますと約20ページ近くあるので、章に入るまでにこんなに時間をとるなんてと思いましたが、もっと簡潔にしてくれたほうがいいかなと思いました。イラストも少し教科書

的、今風ではないかなと思いました。

教育出版は区切りがはっきりしていて、疑問、課題、仮説、いろいろ続いて最後、結論みたいな、教科書を見れば流れが分かるというふうになっていました。あと、図がたくさんあって効果的に使われている。文字が大きくて見やすい、私は見やすかったのですけれども、子どもは目が悪くない子も多いかと思しますので、文字が大きいことが必要なのかどうか、そこは分かりません。

啓林館ですが、単元の扉に振り返りがあって、小学校との関連を意識した構成になっていました。やはりこれも項目がはっきりしていて、思い出す、考えよう、話し合う、というふうに分かりやすくなっていました。あと、コラムが充実していましたが、理科室の先ほどの注意事項みたいなものが見当たらなかったのですが、どうなのでしょう。以上です。

○小町教育長 理科はよろしいですか。

〔「はい」との声あり〕

○小町教育長 続きまして、音楽(一般)です。

はい、田中委員。

○田中委員 音楽(一般)について申し上げます。2者ございますので順を追って申し上げます。

まず教出ですが、教出については、音楽に対して生徒の興味を喚起させ、なおかつ主体的、協働的に学ぶための「学びのユニット」に基づいて教材を配列した教科書として工夫されておりました。特に内容の配列に無理がなく、学びのねらいなども具体的に記載してございます。さらに、記載されている歌曲同士の関係性にはアイコンで示して、「比べてみよう」では主要な歌曲の特徴を比較しながら、聴いたり歌ったりすることで理解を深めるように工夫されておりました。

また、教芸については、主体的・対話的な学習を引き出し、深い学びを促す教科書として工夫されておりました。特にP. 14・68では、歌唱法の具体的な説明とともに、楽譜がまとまってとても見やすくなっておりました。さらに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて「曲のよさをプレゼンしよう」を設定しておりました。これらを通して学んだことをもとに、曲の音楽的な特徴や生徒自身が感じとった内容を紹介する場面も設定されておりました。

改めて、これを踏まえながら研究を重ねてまいりたいと思います。

○小町教育長 ほか、ございますか。嶋田委員。

○嶋田委員 音楽の教科書、どちらもきれいで、とてもよくできているなと思いました。

まず教育出版のもの、音のスケッチなどの創作のページも使いやすそうだなと思いましたけれども、巻末のところを、見開きの中にもわりと定期テストなどにも使えるような情報があって、でも、これは見ないかバラバラになってしまうか、どっちかというふうに思いました。あと、巻末の歌のアルバムの楽譜が、色付きでなくて白地のほうがいいかなと思いました。

教育芸術社のもの、こちらにも創作活動のページも大変よくできていますし、歌い方とか指揮の仕方も分かりやすく説明してあるなと思いました。楽譜がたくさん載っているのはありがたいですけれども、副教材とかぶっている曲が多いなと思いますので、できればかぶっていない

い曲を伴奏付きで増やしていただけたらうれしいなと思いました。

○小町教育長 ほか、ございますか。伊藤委員。

○伊藤委員 音楽につきましては、中学の場合にはそれぞれ専科の方々ですので、小学校とはまた違った形にはなると思いますけれども、授業者が扱いやすいかどうかというところ、私は音楽については本当によく分かりませんので、例えば同じような楽譜の扱いについても、どのように考えるかというところが多く存在するというように思いますので、ほかの方の意見をお聞きしながら考えたいと思っております。

○小町教育長 ほか、ございますか。小林委員。

○小林委員 音楽ですが2者ありまして、大体同じような感じではあるのですが、一番違うのは、教育芸術社のほうが今の若い人の情報を取り入れているという気がいたします。歌手にしてもクイーンとかユーミンとか、曲も「花は咲く」とか、ポピュラーの歴史の扱いが全然違って、教育芸術社はレコードのジャケットをいろいろ並べてあって、それで歴史を示しているというような扱いをしています。あとビートルズの「Let It Be」とかも入っていましたし、その辺でだいぶ感覚が。あと打楽器の叩き方とか、和太鼓ではなくほかの打楽器も詳しく載っていたりしました。その辺が違うところかなと思いました。

○小町教育長 続きまして、音楽(器楽合奏)です。

はい、田中委員。

○田中委員 音楽(器楽合奏)、2者について申し上げます。

まず教出でございます。教出は、器楽表現のために習得する基本的な知識や技能をまとめて、演奏の仕方を身に付ける教科書として工夫されておりました。特にP.4ではリコーダーの運指表やギター及びキーボードのコード表の掲載、さらに楽器の演奏練習において、繰り返し練習ができるようになっておりました。かつ3年間継続して取り組める内容になっております。その上で和太鼓及びその他の打楽器で構成されております。このような日本の伝統文化の尊重も非常に大事ではないかなと思っております。

続いて教芸でございます。教芸については、様々な音楽文化に触れ、その良さを感じ取りながら表現活動ができる教科書として工夫されておりました。特にP.44では琴の楽譜が縦書きで使いやすく、P.56では打楽器の項目の記載が増えております。さらに、楽器の演奏の仕方を身に付けやすい楽曲と現代アーティストが作曲した楽曲の両方が記載してございました。生徒にとっては大変親しみやすく演奏の意欲が出るのではないかなと思っております。

○小町教育長 ほか、ございますか。嶋田委員。

○嶋田委員 器楽の教科書に関しまして、どちらもよくできていると思いますけれども、教育芸術社のほうがリコーダーの弾き方など分かりやすかったり、打楽器の記載も多くてこちらのほうがいいかなと思いました。あと、ギターのことが両方の教科書に載っていましたけれども、今現在、立川市の中学校ではあまりギターは使われていないようですが、このコロナの時代でギターというのは意外と飛沫も飛ばないし、いいのかなと思ったりしたので、ギターのこと。これ自体も分かりやすく書いてあるかと思いましたがけれども、このコード表は

若干、教育芸術社のほうが見やすいかなと思いました。

○小町教育長 ほか、ございますか。伊藤委員。

○伊藤委員 音楽につきましては、表紙の絵もほとんど同じような感じですし、できれば器楽と一般と一緒に形で考えるのがいいのかなという気がいたします。

○小町教育長 ほか、ございますか。小林委員。

○小林委員 先ほど打楽器のことを言いましたが、こちらの器楽のほうの教科書に入っていました。失礼いたしました。先ほど言った違いが器楽のほうにも出ていまして、例えばリコーダーでは「世界に一つだけの花」とか、琴で「少年時代」「夏祭り」とか、篠笛で「もののけ姫」とか、実際にやるやらないは別としても、あと「モンゴル 800」とか写真まで出ていますので、その辺の、若い人に受けるという意味でちょっと違いが出ているのかなと思いました。

○小町教育長 よろしいですか。

〔「はい」との声あり〕

○小町教育長 次は美術です。

はい、田中委員。

○田中委員 美術については3者ございます。

まず、開隆堂については、思考力、判断力、表現力等を育成し学びに向かう力、人間性を涵養し、豊かな情操を培う教科書として工夫されております。特にP. 18では生徒がよく見かける作品を多く記載してございました。現代作家の作品がやや多く、作品の背景が丁寧に書かれております。その中で大事なことは、新学習指導要領に基づき題材をもとに学習の目標をイメージし、かつ学習の目標と内容及び育てたい力との関連、これが明確に示されておりました。

続いて光村ですが、美術に気づく目を養い、豊かな感性を育む教科書として工夫されておりました。特にP. 64では学習の流れが分かりやすく、基本のスキルを押さえており、制作と鑑賞のバランスがよくとれております。さらに、レオナルド・ダ・ヴィンチの「最後の晩餐」にトレーシングペーパーで書き込みをしながらすすめることができたり、P. 36では鳥獣人物戯画と手塚治虫の火の鳥が折り返しで比較できるようになっておりました。このような工夫も非常に大事ななと思って拝見をいたしました。

次に日文についてです。日文については、中学校3年間の成長を後押しするような美術の学びを叶える教科書としてよく工夫されております。特にP. 10では生徒の参考作品を多く掲示してあります。その上で生徒の意欲を高めるように様々工夫されておりました。またP. 32では屏風をたたむや、2・3下のP. 55ではトリックアート、これらがあります。これを通して生徒が体感的に興味をかきたてられるものになっているのではないかと考えております。さらにワイド判のため図案の美しさが魅力的であります。特に火焰型土器の原寸大図解や、教科書を6つに折れるようになっていますが六曲、尾形光琳の燕子花図屏風を立てて鑑賞できるように工夫されておりました。

この3者とも、それぞれいろいろな工夫をしながら生徒の興味・関心をかきたてる教科書だなということで拝見しておりました。

○小町教育長 ほか、ございますか。嶋田委員。

○嶋田委員 まず開隆堂のものは、シンプルでどの学校でも見やすい内容になっているかなと思います。デザインの工程を学べる資料などはとても題材もいいなと思いました。

光村図書は、キャラクターは好き嫌いが分かれるかなとは思いましたがけれども、こちらはシンプルで見やすく、紙質の違うページがあるのもおもしろい工夫だなと思いました。

日文のものは、表紙がとても素敵できれいな写真を使っているなとは思いましたがけれども、少しごちゃごちゃ見にくいページがあるかなと。調査結果の中に、生徒作品に偏りがあるということです、これはあまりよくないところかなと思います。

○小町教育長 ほか、ございますか。伊藤委員。

○伊藤委員 3者とも、とてもきれいにまとまっているというか表現されており、見ていて楽しい教科書になっているように思います。美術に関しては、興味のあるところがずいぶん変わってくると思うんですね。古典的な絵画がいいと思っている人、日本画であるか洋画であるかとか、現代アートであるか、それからデザインというところも、今の子どもたちがこれから大きくなっていくのに大切な部分だと思いますので、こういうところをいかに発揮させてあげられるかというのは、教科書だけではなくて、指導にあたる先生の力にもよるものがあるのではないかなというところで、もう一度考えてみたいと思っております。

○小町教育長 ほか、ございますか。

○小林委員 皆さんおっしゃったようにとても美しい教科書で、美術というのは目を和ませてくれることが大事だと思いますので、とても美しくできていると思います。先ほど光村でしたか、「最後の晚餐」のところにトレーシングペーパーがあったと。それってどういう意味かなと分からなかったのですけれども、思うに、「最後の晚餐」は長い間かかって修復されて、美しく再現できた、それが大切なものだということを、雰囲気を出すためにそういうことをしたのかなとか、ちょっと意図が分からなくて、べつにあれがなくても絵の具がくっついてしまうわけでもない、意図がよくわかりませんでした。あと、版画のところでも紙質が変わっていたので、版画と絵画の違いというのが感覚的に分かるのではないかと思います。

あと光村に関してですけれど、広げるところがたくさんあって、風神雷神図とか、ゲルニカとか、浮世絵とか、本当にアップで大きくして見るとすごく迫力があって感動するというようなものを大きくしてあるので、とてもいいなと思いました。ほかのところも広げて見るというところはありますが、特に光村は多かったように思います。

あと、日本文教出版だけ3冊になっているんですかね。それはどちらがいいのか判断つきかねます。その辺も先生方に聞いてみたいと思います。日本文教出版は学びの言葉というのがあって、ユーミンとか岡本太郎さんとかが文章を寄せているので、どういう目的で学ぶかという言葉、子どもたちに感じてもらえたらいいなと思います。

開隆堂は、生徒作品がたくさんあって、プロのものと混ざって入っているんですけれど、

その辺、使いづらくないのかなと疑問を持ちました。

○小町教育長 では、美術はよろしいですか。

〔「はい」との声あり〕

○小町教育長 次は保健体育です。

はい、田中委員。

○田中委員 保健体育については4者ございます。順を追って申し上げます。

まず東書ですが、東書については、豊富な資料で保健や体育理論を学ぶ、かつ意欲を高める教科書として非常によく工夫されておりました。特にP.21から28、またP.44、ここでは心身の発達には個人差があることを強調し、多様性や個人の価値観を尊重するように配慮しておりました。また、挿絵や写真など、これらについては男女の表現等については細心の注意を払っております。さらにSDGsから考えよう、性の多様性の資料も記載されてございました。その上でがんの予防、これらについても様々な面から丁寧に取っております。

続いて大日本ですが、大日本については、教科内や他教科、家庭・地域とのつながりが分かりやすい教科書としてよく工夫されています。特にP.38・97ではインターネットに係るトラブルを扱うとともに、全ての単元の本文を左ページ、資料を右ページに分けて記載しております。これを通して様々な授業形態に対応できるような工夫をされているのだなと思っております。さらにP.144ではインフルエンザウイルスの生存率と環境条件、さらに、私たちの生活とスマートフォンなどを記載してございました。この中で生活の関連について丁寧に工夫されておりました。

続いて大修館でございます。大修館については、関心や学習意欲を引き出し、気付きや思考を促すような教科書として工夫されておりました。特にP.90・105では現代的問題を取り扱い、より詳細に記載されておりました。また、前半が体育理論、後半が保健の順に配列されております。この教科書の使い方、保健体育の学び方、この内容も大変充実しております。学習も効果的に進められるように配慮しております。さらにP.3と92では他教科との関連も示されております。教科横断的な学習に結びつくようになっております。その上で、各巻末には章のまとめを記載しております。これについては家庭学習と対応したものとしてよく工夫されておりました。

最後でございます。学研ですが、学研については、探究心に応え、より深い学びに結び付けられるような教科書として工夫されておりました。特にP.148では「スポーツとSDGs」と記載しております。また、P.188から189では「保健体育の学習の終わりに」という欄があります。その上で148ページとそれをリンクさせています。この辺りの関連性を考えながらよくつくられた教科書だと思えます。さらに小中高連携から小学校と学習内容について、章の扉が紹介してございました。

それぞれ4者ともいろいろな工夫をされておりますので、さらに調査を進めていきたいと、このように考えているところでございます。

○小町教育長 ほか、ございますか。嶋田委員。

○嶋田委員 保健体育に関しまして、私は大修館のものが新しい話題も多いですし、課題をつかみやすい、そしてまとめのところも使いやすいかと思います。リラクゼーションの方法など中学生に役に立つかなというように丁寧に書かれていたように思いました。

それから学研のものも新しい話題が多いですし、同じように中学生が実際にできるようなこともよく書かれていたと思います。

○小町教育長 ほか、ございますか。伊藤委員。

○伊藤委員 この4者がありますけれども、保健体育に関してはなかなか難しいことが多くて、つまり、新しい考え方がどんどん出てくるという状況で、教科書だけに頼らないで先生方がうまく対処していただければというような、例えば、コロナが入っていてもいいかなという感じもしますし、でも例えば同じコロナでもうがい薬がいいかどうかなんて、出てくるかどうかというのはなかなか難しい問題にもなるわけですから。

私、最初に見たのが4者の熱中症に関する記載で、予防と手当は違うという、予防は水を飲めばいいですし、手当の場合には塩分を含んだ水をあげればいい。その違いというのがどれだけ書かれているのかというところが、見た上では大修館のものが一応が一番化学的にはいい表現であったなというような気がいたします。ただ、本当にこれは状況が変わってきて、また来年どういう考え方になるのか、変わってくるかなという気がいたしますので、先生方が教えるときに新しい情報をいかに入れていただくかというのが大切なという感じで、少なくともこの中では一番大修館が熱中症に関する表現としては良かったなという気はいたしました。

○小町教育長 ほか、ございますか。小林委員。

○小林委員 本当に新しい情報を入れ込むというのは、今の時点では教科書会社にとっては難しいことかと思えます。感染症のページはありますけれどもコロナはまだ出てきていませんが、感染症の対策とか学ぶことは役に立つのではないかと思います。反対にオリ・パラのページも結構入ってまして、これがどうなるか分かりませんが、来年に延ばして、またそれを学べればいいかなと。結構いろいろな会社のが入っていますので、それも有効に活用できるようになればいいなと思えます。

中学生の保健体育で私が気になるのは薬物、喫煙、飲酒です。どの会社も入っていますけれども、大修館が詳しいかなと。それと大日本図書がその断り方までちゃんとセリフで、なのでもしものときには活用できるかなという気がしました。

○小町教育長 保健体育、よろしいですか。

〔「はい」との声あり〕

○小町教育長 それでは技術・家庭(技術分野)です。

はい、田中委員。

○田中委員 技術・家庭(技術分野)について3者ございますので、申し上げます。

東書については、技術による問題解決に主体的に取り組むことができる教科書として工夫されておりました。特にP. 50、118、170、220 などでは学習したことを活かした問題解決に

取り組む学習であり、総合的な学習の時間に結び付けられるような教材であったと思います。また、P.144 ではエネルギー変換の技術のために、これは発展方法について比較しやすく紹介しておりました。さらに各編には学習のまとめのページがあります。そこには生徒が何を学び、何ができるようになったかを確実に確認できるようにされておりました。やはり学びの定着を図るためにどうすべきかということで工夫された教科書であるなどと思っております。

次に教育図書です。この教科書については、職業観、勤労観を重んじて、主体的に社会の形成に参画できる力を育てる教科書として工夫されておりました。特にP.3 での別冊資料の技術ハンドブック、これが実習で活用できるように工夫してあります。とても素敵なことだなどと思います。その上で、問題解決的な学習がしやすく、取り組みやすい実験題材も数多くありました。さらに小中高に対応したプログラミング教育あるいはキャリア教育、特別支援教育への配慮から作業しやすい環境づくり、これが見開きで設けてありました。これは大事な工夫だなどと思います。

最後に開隆堂です。開隆堂については、持続可能な社会の構築に向けて、基礎的・基本的な知識及び技術を習得できる教科書として工夫されておりました。特に技術分野のガイダンスが19 ページにわたって記載しています。非常に充実している教科書だと思いました。その中で詳細に記載されているために、家庭でも学習しやすいように工夫されておりました。またP.14 から15 では、技術の見方・考え方として、工夫あるいは技術のしくみ、科学的な原理・法則の見方が提示してあります。さらに教科書の見開きの右下にQRコードが設けられています。大事な教科書だと思います。

○小町教育長 ほか、ございますか。嶋田委員。

○嶋田委員 東京書籍のものは、巻末の「プログラミング手帳」というものが今の子どもたちにも見やすい感じにできているかなと思いました。

それから、開隆堂の情報の技術とかセキュリティとか、その辺りの記載が実際に使うことを意識して見やすくよくできているなどと思いました。

○小町教育長 ほか、ございますか。伊藤委員。

○伊藤委員 技術分野に関しては、3 者が本当にそれぞれに特色をもった教科書であるなど。

例えば野菜とか花とかという形になったときの東京書籍の情報量の多さ、とても良かったなという感じがいたしますし、教育図書の別冊のところは、まとまっていて分かりやすいかなと。ただ、全体的に見やすいかどうかというところからすると、開隆堂が見やすいかなというような、それぞれ特徴を持っています。また検討したいと思います。

○小町教育長 ほか、ございますか。小林委員。

○小林委員 私も別冊になっているのは、また使えるかなと。あと、プログラミングのところ が後ろについている東京書籍も便利かなと。開隆堂は見やすくてマンガチックでいいのではないかなと。あとでよく検討させていただきます。

○小町教育長 よろしいですか。

〔「はい」との声あり〕

○小町教育長 続きまして、技術・家庭(家庭分野)です。

はい、田中委員。

○田中委員 技術家庭(家庭分野)でございますが、ここでは3者ございます。申し上げます。

東書については、実践的・体験的な学びで、生きる知識及び技能が身に付く教科書として工夫されておりました。特にP. 174 及び巻末では、防災に関する内容及び他教科への発展につながるように工夫されておりました。また、P. 33 から 34 では、食品群が1群から6群まで1ページにまとめておりました。見やすくなっております。さらに防災・減災手帳、子どもの視界体験眼鏡が設けられ、手帳に付属しているQRコードを読み込むことによってハザードマップへリンクし、防災授業に役立てるように工夫されておりました。とても大事な工夫かなと思います。

次に教育図書は、豊富な実習課題で取り組みやすく、主体的・対話的に取り組める教科書としてよく工夫されておりました。特にP. 12 から 13 では、アニメや漫画に登場する家族や家庭などとても興味深く拝見いたしました。ここで大事なのは、興味・関心を高める視覚的な資料、こういうことを掲載することが大事なのかと思っております。またP. 38 などでは重要語句を黒字で太く記載してございます。さらに、問題解決的な学習として「見つめる」「学ぶ」「ふり返る」の流れ、そして家庭学習としては布製マスクも記載してございました。

最後に開隆堂です。開隆堂については、基礎基本を着実に身に付け、自立と共生をめざす教科書として工夫されておりました。特にP. 56、140、210 などでは、導入の問いかけが分かりやすく対話的な学習に取り組みやすい内容として工夫されておりました。また、P. 248 では消費生活の内容や、その内容を分かりやすく中学生の被害者として生徒の立場から扱っております。やはり今、中学生の場合、様々な課題を抱え、また消費も含めて被害に遭ったりするわけですが、そういうものを生徒の立場から扱っておりました。さらにQRコードコンテンツでは実習や実験の動画が設けられております。とても分かりやすい動画でした。

○小町教育長 ほか、ございますか。嶋田委員。

○嶋田委員 家庭科の教科書は、どの教科書も丁寧によくできていて、家庭科ということにとらわれずに様々なことを学習できるなと思いましたが、子どもたちが人生の教科書として長く手元に置いておきたいなと思えるような教科書になっていると思います。各者ともQRコードで幼児が遊ぶ様子とか、魚のさばき方とかも見る事ができて、大変いいなと思いました。

東京書籍のものは、イラストが可愛らしくて好感が持てますし、写真もインパクトがあっただけで分かりやすくまとまっているかなと思います。調理の仕方なども詳しく載っていたと思います。

教育図書のもの、子どもの遊び道具なども載っていましたし、多分この教科書だけだったように思いますが、虐待防止について65ページに詳しく載っていたのも良かったなと思いました。それからマスクの作り方も載っていたのもちょっとタイムリーだなと思いました。

開隆堂のものは、全体的にどの話題にもよく丁寧に書かれているなと思います。特に悪い

点は見あたらないです。幼児のおやつ作り方が載っていなかったのがちょっと思ったのですが、おやつ作り方が載っていて、そこに「幼児の食生活」のリンクというふうに書いてあったので、一応幼児のおやつを作ることになるかなと思いました。

どの教科書もいいなと思います。

○小町教育長 ほか、ございますか。伊藤委員。

○伊藤委員 家庭分野も3者でそれぞれとてもよくまとまっていて、見ていて楽しくまた勉強になるなというような形の教科書であると思っております。この中では開隆堂のものが、家庭というものは、まず家族を中心としてできてくるんだというような形、まず家族が出てきて、子どもがいて、高齢者がいて、その生活をどういうふうにするのか、栄養をどういうふうにするのか、建物をどういうふうにするのか、災害に対してどうしたらいいか、中学生の被害であるとかというような流れが、最初に家族が出てきてから出てくるというような形。東京書籍のほうは最後に子どもたち、家族が出てくるので、どちらかと言うと私は、子どもが好きな立場からすると、開隆堂が好きかなという感想を持ちました。

○小町教育長 ほか、ございますか。小林委員。

○小林委員 家庭科家庭分野は、人が生きていくうえで絶対に必要な様々なことが本当にたくさん盛り込まれていて、実社会で今現実に問題になっているような少子高齢化を学べるようなものでもあります。3者比べますと、気になったのは、東京書籍が食から入っているのですね。あとの2つは食が一番最後ですけども、何か意図があるのか、その辺、私は食は後でもいいのかなというふうに思いました。

そして開隆堂は、ロールプレイングでいろいろな人の立場に立つ体験をしたり、タイムリーな内容がたくさん入って入って、育休男子の写真みたいなものが載っていました。それからLGBTとか、男女の差のない中学校の制服、女性もパンツでもいいというような制服にした学校の例。あとは、フィンランドで行われている「ネウボラ」といって妊娠期から就学前まで子育てをずっと支援していて、妊娠したときに、いろいろな育児用品が箱に入っていて、そういうものがもらえるという例がありますが、それも載っていました。

教育図書ですが、アニメの家族、先ほど出ていましたけれども、イラストが多用されていてとても見やすい感じがします。こちらにもロールプレイングが入っています。あと若者の消費者被害が分かりやすく図解化されていて、国民生活センターとか消費者庁の写真までも出て入って、身近に問題意識を持ってもらえるのではないかと思います。消費者としての責任ある行動を考えるというテーマで、ディスカッションとか考える時間をとってあるようです。あと環境問題などもありました。何度も出ていますけれども、これ意図したことではないとは思いますが、マスクのミシンの作品がちょうどタイムリーに載って入って、それもいいかなと思います。

東京書籍もロールプレイングがありますが、食が最初というのを先ほど申し上げましたが、どういう意図なのか聞いてみたいような気がします。あとミシンの作品は幼児のおもちゃとかリメイクでジーンズをバックにするとか、今皆さんが持っているマイバックを自分で作っ

ている、そういうのも作品としてはいい作品であると思いました。

あと面白かったのは子どもの視野を体感できる、そういうものがついています。切ってそれを使うというのがありますが、よく妊婦体験とか老人の体験とかありますけれども、子どもの視野は私も知らないのです、それは興味深いと思いました。

○小町教育長 技術・家庭はよろしいですか。

〔「はい」との声あり〕

○小町教育長 次は外国語(英語)です。

はい、田中委員。

○田中委員 外国語(英語)について、申し上げます。6者ございます。

まず東書ですが、自立した英語学習者を育てる教科書としてとても工夫されておりました。1年生のP.130、131では、情報量が非常に豊富で、かつ活動が多く記載されております。また、各学年ごとにP.2の③の巻頭では、「学習の見通しを立てよう」とともに、他教科との関連がとりやすく配慮されておりました。さらにICTではQRコード、Dマークコンテンツ、これをもとにして家庭でも最適な自学自習ができるよう配慮されておりました。その上で学習効果をどう高めようかということで様々な工夫がされておりました。

開隆堂については、生きたコミュニケーション能力が身に付けられる教科書として工夫されておりました。2年生のP.30では各課の終わりに設けられている「Retell」は復習に使えるようになっておりました。特に2年生のP.30では各課の終わりに設けられている様々な取組、それが復習に使えるとともに、基本文については漫画と音声で導入することで音から文字への学習の流れを考慮しておりました。そのため場面や文脈を意識しながら文法を学べるよう工夫されておりました。

三省堂については、ことばを使う力を育て、他と関わる力を育成する教科書として工夫されております。特に1年生の「Starter」、これが1から3あるのですが、小学校の学びを振り返る内容で構成されておりました。また題材の構成では、ことばを使う、関わる、考える、学ぶ、この4つの視点で構成されておりました。とてもすばらしい構成だなと思います。その上で、書体は1年次から複数の書体で少し混在していたな、そんな印象を受けました。

次に教出でございます。教出については、基礎・基本が定着すると同時に、発信する力を身に付けられる教科書として工夫されておりました。特に第1学年の最初の英語量がとても多く感じました。したがって、内容が豊富で生徒の学習への関心が継続できるような構成になっていたと思います。また、見開きのバランスがとてもよくて、QRコードから各単元の本文の音声が届けるような工夫がされておりました。とても大事な工夫だと思います。

次に光村でございます。光村については、豊かな学びを通じて、「英語を使ってできること」を着実に増やしていくことのできる教科書として工夫されておりました。特に1年の巻頭の教材は小学校での学びを振り返る内容となっております。その中で5つの領域をバランスよく達成できるように工夫がされております。また、どの学年も無理なく学ぶことができる分量だと思います。かつ人物のイラストや吹き出しの表現が豊富で見やすく、興味が持てる

ように工夫されておりました。

最後に啓林館でございます。啓林館については、コミュニケーションを図るための基礎的な資質・能力を身に付ける教科書として工夫されておりました。例えば、アニメの作者や世界で活躍する日本人、実際の出来事、それを扱った教材を数多く取り入れておりました。また、本文から練習さらに活用へとステップアップする形で取り組めるよう工夫されております。その上で文字、写真のバランスがとてもよくできているなと思いました。本当に生徒の興味・関心を引く工夫だなと思います。

○小町教育長 ここで教育委員の皆さんにお諮りいたします。

上川市教育委員会会議規則第10条で、会議の時間は4時ということになっておりますけれども、同条ただし書きの規定に基づきまして、会議時間を1時間延長して午後5時までとしたいと思いますが、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」との声あり〕

○小町教育長 異議なしと認めます。それでは、会議を午後5時まで延長いたします。

ほかに、ございますか。嶋田委員。

○嶋田委員 英語に関しては、やはり専門的なことは分からないのですが、昨今、話すことに重点を置き過ぎて、長文を読む能力とか語彙力とかが落ちているというような話を聞いたことがありますので、4技能5領域の活動がバランスよく配置されているという点で見ると、東京書籍とか三省堂あたりがいいのかなと思いました。

東京書籍は特に難しいと思えば難しいのかもしれませんが、そういうちょっと知的な話題も知っておくほうが、これから羽ばたいていく子どもたちにはプラスになる面もあるのかなというふうに感じました。資料編の読み物もまとめも分かりやすく、「Can-Do List」というところも使いやすいかと思いました。

あと、光村図書も小学校から上ってくる子どもたちが分かりやすく、ちょっと日本語に頼りすぎかなと思うところはありますけれども、身近に感じる話題も多いですし、入りやすいのかなというふうに思いました。

もう1つ啓林館のものは、派手な話題は少ないですが、すっきりと見やすいなと思いました。裏表紙の前置詞のイメージはとてもおもしろいなと思いました。

○小町教育長 ほか、ございますか。伊藤委員。

○伊藤委員 私も嶋田委員おっしゃったように、バランスがわりあいととれているというふうに思っていたのは東京書籍と三省堂です。

あとは、田中委員がおっしゃったように、光村は振り返りがしやすくなっているというようにお話がありまして、小学校の教科書が光村であるとする、それも一つ選択肢の中には入りそうかなという気がいたしました。

○小町教育長 ほか、ございますか。小林委員。

○小林委員 英語を学ぶ意義というのは外国の方と交流するということがありますけれども、ワールドワイドな感覚を身に付けるということも大事で、教科書の中にどんな題材を取り入

れるかということが私は気になります。

三省堂は、最初は世界のことがいろいろということで世界地図が出てきて、題材も世界の情報が結構入っているなという気がしました。どうしても日本を紹介するとか日本で外国人の対応をするとか、そういう感覚で英語を学ぶというのになりがちで、それはもちろんとても大事なことですけれども、さらに世界に出ていくというところまで感覚的にもっていったらいいなという気がいたしましたので、三省堂はそういう意味ではいいかなという気がいたします。

あと東京書籍も、英語を学ぶロードマップみたいなものが出ていまして、最初は会話中心で、それにプラス、文法で説明をつけるというようなそういうパターンなので、体で覚えるという意味ではこれからの英語の学びはそういう形になるのでしょうかけれども、いいかと思えます。また読み物としても、八田與一先ほど出てきましたけれども、英語でそれが説明してあったり、あとオリンピックの小平奈緒さんが出てきたりとか、結構おもしろそうな内容も入っていました。

あと光村は、スピーキング練習用の教材があって、ゲーム感覚で遊べるという、そういう工夫がされていて、楽しく学べるのではないかと。世界の人物が本当にいろいろな国の人が出てくるんですね。これも英語を話す人がどれだけたくさんいるかということが分かるという意味でも、いろいろな人が出てくるというのは、いいことかと思えます。あとは、鳥獣戯画の絵に英語でせりふを言わせるという、これもおもしろいかなと思えました。

○小町教育長 英語はよろしいですか。

〔「はい」 との声あり〕

○小町教育長 最後です。特別の教科 道徳でございます。

はい、田中委員。

○田中委員 特別の教科 道徳、全部で7者ございます。順を追って申し上げます。

まず東書ですが、東書については、内容としてイラストや漫画が取り入れられております。生徒に適した教材であると思えます。また、視点マークにより視点が明確に示されておりました。その上で、全体の構成としては一教材当たりの分量を少な目にして、考え議論する時間の確保、これができるように配慮されておりました。さらに、意見シートなど話し合いのときに活用しやすい工夫がしてあります。

次に教出です。教出については、内容として生徒がイメージしやすく、教材のタイトルが道徳的価値に直接迫っているものが多いように思います。大事なことだと思えます。また、全体の構成としては教材の配列と学校行事の関連、この工夫もされております。さらに構成上、学期末や年度末に取り組むことができるような工夫もしてありました。やはり大事なのは、学期ごと、年度ごとにどうなっているのか、その過程が大事であるかなと思えます。

次に光村です。光村については、内容として補助教材が複数収録されております。そのことを通して、道徳では全部で22内容項目がありますけれども、その内容項目を深めるように工夫してあります。また構成上、別冊のシート、ここから学期ごとの振り返りができるよう

に工夫されておりました。非常に大事な工夫であると思います。

次に日文です。日文については、内容についてコラムやまとめも充実しておりますし、適切に編集されているなどと思います。また、構成上、切り離しが可能な道德ノートがあります。したがって1時間ごとに振り替えると年間の学習の経過が保存されるように工夫されております。このように学びをきちんと残していくということは必要かと思えます。

次に学研です。学研については、内容として情報モラル教育や現代的な課題を取り扱った教材が豊富であると思います。また、構成上では写真やイラストがダイナミックに配列されておりました。さらに学びの記録、ここでは問いに対して自分の考えを記録できるように工夫されておりました。とても素敵な工夫だと思います。

次に廣あかつきです。これについては内容として、めあては発達段階を考慮し教材によって道徳的価値をあえて明示しない工夫をしておりました。したがって生徒にしっかり考えさせようという工夫だろうと思います。また、構成上は小学校からの系統性が考慮されて本文の文字が大きくなっております。とても分かりやすくなっていました。

次に日教です。日教については、内容として巻頭に取り組む姿勢や教科書の扱い方が書かれておりました。その上でカット教材が多く取り入れられ議論がしやすく工夫されております。また、構成上は教員による文字の教材が非常に多く取り入れられて、非常に身近な教材として読みやすく工夫されておりました。さらに、最後のページには内容項目に応じた振り返りページ、これが工夫して記載してございました。

○小町教育長 ほか、ございますか。嶋田委員。

○嶋田委員 道德の教科書、東京書籍のものは導入が分かりやすく、「考えよう」「自分を見つめよう」「自分の学びをふり返ろう」というシンプルな発問で、どんな先生でも使いやすいのではないかなというふうには思いました。右ページから始まっているというところで、日本文教出版のものは、分冊になっているのですけれども、ノートのように使いやすい反面、落としてしまったり、なくしてしまったりということがなくはないかと思えます。それから分冊に保護者記入欄がありますけれど、子どもによっては親が見ると思うと正直に書けなかったり、取り繕うようなこともあるのかなと、思春期の子どもたちですので。また親のほうも子どもの評価に関わるとなると、一生懸命書いてしまったり、また逆に、忙しくて見られないような方もいらっしゃるのではないかというところで、少し難しいような気もしました。

それから学研のもの、こちらも右ページから始まって、題材も現代的な子どもたちが自分事としてとりやすいものが多くて、また、地域とのつながり、ボランティア、震災などのものもあって、これもいいのかなというふうに思いました。

○小町教育長 ほか、ございますか。伊藤委員。

○伊藤委員 各者とも題材的にはそれほど違わない、違うものを扱っていないと思っております。ただ東京書籍の場合、特に最初のほうでは、ほとんど結論らしきものが出ないような形ですうっといくところが、逆に新しく中学生になった子どもたちに考えてもらうというところ

ろではおもしろいのかなという気がいたします。ごく最近、道徳の教科書についてはいろいろ検討したときにお話したのは、1年生の最後に「橋の上のおおかみ」が出ているのが光村と東京書籍ですけど、とても新鮮に感じておもしろかったなと思ったのを憶えております。

○小町教育長 ほか、ございますか。小林委員。

○小林委員 道徳では、いじめを取り上げることはあると思いますけれど、どの会社もいじめについてはしっかり記載されていました。あと、題材もそれなりにいろいろ検討されたものが載っていましたが、先ほど言った八田與一も出ていましたね。

日本教科書で少年法のことが出ていました。中学生でそれを学ぶ機会ってあるのかどうか分かりませんが、犯罪についてはしっかり考えていただきたいという意味では、これはいい教材かなと思いました。

あと、分冊になっているのは、ノート付き、自分の成長が分かるという意味では何年後かに見直したときに、「こうだったな」という意味ではあってもいいのかなと思いますけれど、文教出版についています。

光村にも巻末に記録をする欄がありまして、冊子になっていなくてもこれぐらいで、1回の振り返りを簡単に書けるぐらいのほうが気楽にできるのかなと思いました。

あかつきですけども、すごく立派な内容で、タイトルもすごいです。勤労の尊さや意義を理解し、社会に貢献するとか、自然の崇高さを知り、自然保護に努めるとか、タイトルでちょっと引いてしまうような感じですので、もう少し中学生に合った分かりやすいタイトルにしていだけたらいいかなというふうに感じました。

○小町教育長 ありがとうございます。以上、教育委員の皆様方から、教科ごとに、種目ごとにご意見を承りました。私のほうから最後に申し上げたいと思っています。

教科書採択にあたりましては、教科書のそれぞれの特徴ももちろんですけど、しっかりと立川市の子どもにとってどうなのかというところで最終的な採択の決定をしてみたいと考えております。立川市の今の教育の状況を若干申し上げますと、まず1つ目に立川の子どもたちの状況でございますけれども、公教育でございますので、様々な子どもたちが地域という同じバックボーンの中で、校区の中で生活していきまして、その生活背景を持った子どもたちが一堂に会して学ぶという、多様な学びを展開しているわけでございます。

そういったわけで、学校教育の中の一つの柱といたしましては、授業を子どもに寄り添っていか丁寧展開するかというところがとても大切だということで、授業の展開につきましてはスタンダード20ということで、導入から展開、終末ということで流れをある程度押え込みまして、子どもたちが安心してどの授業も受けられると、そういったユニバーサルデザインを含めた授業設計をして取り組もうということで、先生方の工夫はもちろんですけども、ベースは子どもたちが安心して取り組める、そんな授業にしていこうというのが1つでございます。ですからステップを丁寧に追った教科書、それがよろしいのかなと思っております。

2つ目が、主体的で対話的で深い学びということで、大きく教育のスキームが変わってお

ります。小学校は今年度から始めているわけでございますけれども、この中で一貫して立川市の教育は子どもたちを真ん中に置いて、主体的な学びを中心に展開しようということで取り組んできたところでございます。そういった意味で、あまり先生のほうが発問してしまい過ぎないで、子どもたちの発想を大事に授業の中で取り上げて、子どもたちが自ら学ぶという学びの基本的な姿勢を伸ばせる、そんな工夫をされている教科書を最終的には採択したいということで考えております。

3点目は、やはり地域でございます。公教育ということで地域の学校、地域と共にある学校として立川市はずっと取組を展開してきたわけございまして、国の制度も活用するというので、全校、コミュニティ・スクールで展開しているわけでございます。そんな中、地域を担う立川市民を育成したいということで、立川市民科という取組を小学校1年生から中学校3年生まで小中連携、中学校区ごとに地域特性を踏まえながら、子どもたちが自ら生活している地域をしっかりと学ぼう。地域の中で様々な課題があります。その課題を子どもたちなりに調べ学習をしたり対話をして学びを深めて、それをしっかりとまとめて発表する。高学年、中学生になると社会貢献ということで様々なボランティアとかそのような取り組みを体験的に学ぼうというような取組を展開しているところでございます。そういった意味でいうと、地域という地域活動、それから地域を探索的に学ぶというような要素の入っている教科書、これが採択の大きな条件になろうかなと思っています。

以上3点申し上げましたけれども、いずれにいたしましても教育委員会としましては、展示会を数か所で行いましたり、学校の先生のご意見、市民の方のご意見もアンケートという形で伺っております。何より市民の方に入っていたいただいた先生方の検討会から報告書をいただいているわけでございますので、そういった現場の声をしっかりと踏まえて、立川の子どもたちがよりよく伸びる、そんな教科書を選定してまいりたいと思っています。

今回は選定の決定でございますので、それまで、さらなる研究を引き続きお願い申し上げます。

では、2協議(1)令和3年度使用立川市中学校教科用図書の採択について、は本日の協議はこれまでとさせていただきます。ご異議ございませんか。

〔「ありません」との声あり〕

○小町教育長 異議なしと認めます。

◎協 議

(3) 図書館の臨時休館について

○小町教育長 続きまして、2協議(3)図書館の臨時休館について、を議題といたします。

池田図書館長、説明をお願いします。

○池田図書館長 それでは、図書館の臨時休館について、ご説明申し上げます。

本件につきましては、図書館資料の適正化に向けての特別整理、いわゆる蔵書点検作業の実施のために、条例の規定に基づきまして臨時休館するものでございます。

休館期間につきましては、中央図書館で1グループ、地区図書館で2グループに分け、特別整理実施期間をずらすことで図書館全館で一斉休館を避け、利用上不便が生じない体制をとることとしております。

特別整理(蔵書点検)作業の内容につきましては、お手元の資料3番、特別整理(蔵書点検)作業、(1)から(4)にお示ししたとおりでございます。

周知の方法としましては、「広報たちかわ」、図書館ホームページ、ツイッター、館内掲示、図書館カレンダー、校長会等で周知を図ってまいりたいと考えております。

説明は以上でございます。

○小町教育長 説明ありがとうございました。説明内容を踏まえ、ご質問をお願いいたします。

はい、田中委員。

○田中委員 今、池田図書館長から、様々な機関に対して連絡、周知していくと、そういう最大の配慮をされておりますので、今のご説明の方向でよろしくをお願いいたします。になっております。その辺、少し聞かせていただけたらと思います。

○小町教育長 ほか、ございますか。

〔「ありません」との声あり〕

○小町教育長 ないようでございます。それではお諮りいたします。2協議(3)図書館の臨時休館について、は提案のとおり承認することにご異議ございませんか。

〔「ありません」との声あり〕

○小町教育長 異議なしと認めます。よって、2協議(3)図書館の臨時休館について、は承認されました。

◎報 告

(1) 新型コロナウイルス感染症の対応について

○小町教育長 続きまして、3報告(1)新型コロナウイルス感染症の対応について、を議題いたします。

小林教育総務課長、説明をお願いいたします。

○小林教育総務課長 それでは立川市新型コロナウイルス感染症の対応について、私から、まず立川市新型コロナウイルス感染症対策本部の令和2年7月20日以降の開催状況、第33回、第34回について、ご報告させていただきます。

1ページ目をご覧ください。

第33回は7月20日月曜日に開催いたしまして、5件の案件について、決定、報告、検討を行ったところでございます。

まず、1つ目、新型コロナウイルス感染症対策立川市緊急対応方針第2弾骨子案について、①の地域医療・地域福祉事業にかかわる取組など、①から④を柱としまして検討を進めることとしたこと。また、2つ目、特別定額給付金の給付状況の報告。3つ目、立川競輪場の有観客開催及び場外開催の再開について、報告したところでございます。4つ目、こちらは市の

公共施設全体における新型コロナウイルス感染者発生時の公表方針の決定、これに関連しまして8ページにございますが、既に決定しております市立小・中学校における新型コロナウイルス感染者発生時の公表方針、これにつきましても一部改正を行ったところでございます。なお、この一部改正につきましては、文言整理をしたことのみでございまして、公表する内容等は変わっておりません。5つ目、PCR検査センターの設置に向け、協議を進めていくことを確認したところでございます。

続きまして第34回でございます。7月22日水曜日に開催いたしまして、市の施設で新型コロナウイルス感染者が発生したことについて、その対応を検討するとともに、本日中に市ホームページで情報発信することを決定したところでございます。こちらの内容は11ページをご覧くださいと思います。

こちらは市のホームページの写しでございまして、情報発信の内容でございます。7月22日に本市の心身障害児通園施設に在園する園児1名の新型コロナウイルスの感染が確認されたこと。このことに伴いまして、7月30日までその園を臨時休園することを市のホームページで情報発信を行ったところでございます。

また、多摩立川保健所の指示によりまして、園児と職員がPCR検査を実施しました。検査を受けた方全員の陰性が確認されたこと、また、施設の消毒を7月29日に実施したことについて、情報発信を行ったところでございます。

○小町教育長 続いて前田指導課長。

○前田指導課長 続きまして、中学校修学旅行の中止の状況について、ご説明いたします。

現在の東京都内及び京都方面での新型コロナウイルス感染症の拡大の状況を踏まえ、各学校では学校医にも相談し検討をしてきたところでございます。

資料の上段、修学旅行を中止とした中学校にございます5校につきましては、学校と協議の上、やむを得ず修学旅行については中止ということといたしました。

また、下段にございます今後予定されている4校につきましては、中学校校長会と連携して、学校ごとに実施の可否について検討を今後も継続していくことといたしました。

報告は以上です。

○小町教育長 報告は以上でございます。

説明内容を踏まえまして、ご質疑をお願いいたします。

はい、田中委員。

○田中委員 今、縷々資料を通して説明いただいたわけですがけれども、今後の新型コロナウイルス感染症の対応について、課題としてこういうことが今後考えられるだろうと、そんな点がもしございましたらお伺いしたいと思います。

既にご承知のように新聞報道等によりますと、昨日現在で立川管内で69の方が感染していると、そんな報道もございましたので、それらも踏まえながら、教育委員会なканずく教育総務課として様々ご苦勞を抱えながら取り組んでいる中で、今後こういうことが大きな課題になると思われる、そういう事案というのはございますかということでお尋ねします。

○小町教育長 小林教育総務課長。

○小林教育総務課長 現時点では今、感染者が非常に多くなっているということと、PCR検査を非常に多く皆さん受けられるようになったということがございまして、そういったことで市立小・中学校の児童生徒もPCR検査を受けたとか、そういった情報が入っているようなところでございます。今後そういった情報が教育委員会にも入ってきますので、迅速な対応をこれからも心がけていきたいと考えてございます。

○小町教育長 田中委員。

○田中委員 これからまた終息するのにちょっと時間がかかりますけれども、様々ご苦労おかけしますが、よろしく願いいたします。

○小町教育長 ほか、ございますか。嶋田委員。

○嶋田委員 修学旅行の中止の件で、我が子の中学校も中止になってしまいましたけれども、それでうちの上の兄、姉たちがSNS上で、「ひどい、一生に一回のことなのに」と勝手に盛り上がっていたんですけども本人はいたって冷静で、「これだけ感染が増えているからしょうがないよ」とか、そういう感じなんです。今の子どもたちって聞き分けがいいところがあるようですけれども、ちょっと諦め志向というか、「どうせ無理、無理」みたいなところもあるので、「どうせ俺たちコロナ世代だし」みたいな諦めムードに入ってしまうないように、何かポジティブな志向になっていけるようなことが卒業するまでに何かあればいいなと思っております。

キャンセル料を市で負担していただけるということであると保護者は皆ありがたいと思っています。

○小町教育長 前田指導課長、何かございますか。

○前田指導課長 本当に今、嶋田委員のお言葉の中にあつたとおり、子どもたちの体験をできるだけ守ってあげたいというのは、教育長筆頭に教育委員会だけではなくて、校長も教員たちもみんなそのように願ってまして、それぞれ中止の判断をするたびに、子どもだけではなくて、教員たちも泣きながら子どもたちに説明をしてくれているような状況だというふうに向っています。そういった中で現時点では、とにかく子どもたちの安全を最優先で考えたときに、如何ともし難いというようなところがあり、苦渋の決断を各学校で校長がしてくれているというような状況でございます。

すぐ「代替措置を」と明るく申し上げられればいいのですが、現状の中で本当に子どもたちをいまずぐ集めてしまっているのかということも含めて、状況をしっかり見守っていかなければいけません。なので、状況が好転した暁には積極的に前向きに、受験後の子どもたちへ、明るい顔で集められるタイミングを見計らって、できることはしてあげたいと思っておりますけれども、今はとにかくその状況、状況を踏まえて、子どもたちの安全最優先に検討を進めていくというところでお許しください。

○小町教育長 嶋田委員。

○嶋田委員 先生方、本当に苦渋の決断をなさったと思います。本当に辛いお気持ちは察して

いますし保護者もみんな分かっていると思います。とりたてて大きな別のイベントをやってほしいとかそういうことではなくて、何かしら「あなたたちは頑張っているよ」というメッセージでもいいので、小さなことの積み重ねでいいと思いますので、子どもたちが明るく前向きに卒業できるようにということを願っております。

○小町教育長 ほか、ございますか。

〔「ありません」との声あり〕

○小町教育長 ないようでございます。これで3 報告(1)新型コロナウイルス感染症の対応について、の報告及び質疑を終了いたします。

○小町教育長 次にその他に入ります。

〔「ありません」との声あり〕

○小町教育長 その他はないようでございます。

続きますして、1 議案(1)議案第 47 号、懲戒等について、1 議案(2)議案第 48 号、懲戒等について、2 協議(2)立川市新学校給食共同調理場整備運営事業の特定事業選定について、は冒頭でこれらの案件につきましては非公開として取り扱うことと決定しております。

傍聴の方には恐れ入りますけれども、ご退室お願いいたします。

暫時休憩いたします。

午後 4 時 2 3 分休憩

午後 4 時 2 5 分再開

◎閉会の辞

○小町教育長 それでは次回の日程を確認いたします。次回、第16回立川市教育委員会定例会は、令和2年8月27日木曜日、午後1時半から、101会議室で開催いたします。

これをもちまして、令和2年第15回立川市教育委員会定例会を終了いたします。

午後4時42分

署名委員

.....

教育長